

1 尾張旭市シニアクラブ連合会

① 現状の課題

- ・会員数の減少（県下ワースト2位）、会員の高齢化
60歳以上の人の中からボランティアに参加できる人をどう集めるか、その体制が必要と考える。
- ・会長を受けない理由：補助金申請などの手続き、書類作成の負担
→ 公民館主事の活用、長寿課のシニアクラブ事務局の増員ができないか。
- ・補助金の拡大

② 介護保険制度改正により市独自となった介護予防や生活支援事業の協議の場に参画し、情報提供者となりたい。

③ 高齢者の生きがいと健康づくり、社会参加活動を推進し、安心して自立した生活ができる保健・福祉のまちづくりを進めなければならない。

- ・高齢者の福祉計画などの理念はあるが、どう進めるかが見えない。
- ・高齢者の集う場所づくり（集会所の使えないところがあるなど環境づくりが必要)
- ・高齢者教室（名古屋市の事業）のようなシステム導入により人材を育てることが必要。

2 尾張旭市地域福祉を考える会 ぬくもり

① 現状の課題

- ・会員の高齢化
- ・稲葉サロン・・・手すりの設置箇所、段差の改修工事に立ち合い希望
- ・東部サロン・・・東部市民センターの入り口に市営バスあさび一号が停車するが、高齢者には入口の階段利用が困難であるため、ぬくもりのスタッフが一人一人介助している。スロープ設置か、北側駐車場へのバス停車に変更してほしい。
(見直し以前は、駐車場がバス停)
- ・平子サロン・・・公民館が古く、調理台が低い、トイレが狭い、水道が古く大きな音がする。
- ・サロンに参加し、参加者の方と触れ合ってほしい。

3 尾張旭市手をつなぐ親の会

① 現状の課題

- ・現在24時間対応の障がい者施設がなく、緊急時に預けなければならない時に困る。親の高齢化に伴い、親の亡き後の障がい者の行く場所を考えてほしい。7世帯が片親となっている。障がい者と親が、安心して生活できるグループホームを作してほしい。
- ・市営バスあさび一号を車いす対応のものにしてほしい。乗り入れする箇所に手すりがなく障がい者には利用できない。
- ・現在の建物（ひまわり）も古く、トイレ・部屋・外壁などが壊れているので、補修をしてほしい。まずは、その実情を見てほしい。
- ・ひまわりが運営に苦心している。(利用者の病欠時など支援費が支給されないなど)

4 スーパーグレートマジシャンズ

① 現状の課題

- ・小学校の交通安全教育（低学年）にマジックショーを取り入れてほしい。（瀬戸市は、毎年持ち回りで全小学校にて開催）県の交通安全教育ボランティア「かけ橋」へ申請、県費支給となる。
- 教育委員会へ各小学校への情報提供を依頼済み

5 ふるさとガイド旭

① 現状の課題

- ・会員の減少、高齢化
- ・参加者数の減少（特に市内だけの史跡巡りコース）

② 広報誌に、市内の遺跡や文化財などをシリーズとして連載してほしい。

市内にある文化遺産、歴史遺産、自然を市民に知ってもらいたい、そのための情報発信を協力して行ってほしい。ただし、観光ボランティアとの位置づけにはしないで、あくまで市民に郷土を愛する心を持ってもらうことが目的。

→ 情報課、文化スポーツ課へ要望、検討依頼済み

6 尾張旭障がい児者家族ネットワーク ウイッシュ

① 現状の課題

- ・障害児対応へのSS（学校生活指導補助員）の絶対的不足

現在、配置されているSSは各校に1人であり、ADHD、アスペルガー、被虐待児などの問題を抱えた児童への対応に対して絶対的に不足している現状がある。キレる子、暴れる子、ハサミやカッターナイフを振り回すなどの危険行為も見られる。こうした時には、一人での対応では無理である。こうした現状のもと、学級崩壊、教師の心身的ストレスが起きている。サポート要員の補充が急務である。

② 学校ボランティアの充実と地域の人的資源の活用

学校ボランティアの中に、医療・教育・福祉関係の知識や経験を持った人材を活用できるような仕組みを作ってほしい。

→ 教育委員会へ、教育委員会、各小中学校の学校ボランティア募集に追加項目として障がい児サポートを掲げることを情報提供し検討依頼

③ なぜ、暴れるのかという根本からの解決のためには、就学前からの支援、保護者に対する支援、個別支援計画に基づく保護者と学校との連携などが必要である。

7 尾張旭市歯科医師会

要望項目①～⑩

① 特定健診において、糖尿病とされる数値の方に、歯周病健診のクーポン配布
糖尿病と歯周病との関連が深く、お互いを増悪する原因となっているが、十分な治療を行う人ばかりではない。特定健診においてHbA1c（ヘモグロビン・エイワンシー）6.2%以上

の方に歯周病健診の無料クーポン配布の自治体がある。尾張旭での実施を要望する。

② 「あたまの元気まる」における歯科健診の実施

軽度認知症と歯周病の関係が言われている。「あたまの元気まる」で、軽度認知症と判定された方に、歯科衛生士の指導だけでなく、歯科の受診券を交付し、事後のケアの充実を図り、きめ細やかな保健指導となることを要望する。

③ 学校歯科医の複数制導入

市内の小中学校の児童数、生徒数は、約420名から950名と2倍以上の差がある。児童数、生徒数が多い学校では、1名の学校歯科医に限られた時間で正確な健診を行うのは困難な状況である。県下では、児童数、生徒数により複数の学校歯科医を導入している自治体も多くあるので、健診の精度向上、歯科健診の円滑な実施のため学校歯科医の複数制の導入を要望する。

④ 保育園の健診でのライト付きミラーの使用について

現在、公立小中学校の歯科健診では、ライト付きミラーを使用し健診精度を高めている。保育園の歯科健診では、健診場所の光量が十分でなく、低年齢の子どもは口をなかなか開けてくれないので、苦勞して健診を行っている。小中学校と同様にライト付きミラーを導入し健診精度を高めるよう要望する。

→ 現在、小中学校で使用しているものは、学校の所有であるが、借りることができないのか、健診時期が重なるのか、確認の必要がある。

⑤ 小中学校でのフッ素洗口の実施校の拡大

県内全域で小中学校のフッ素洗口が実施され、市内では三郷小学校が平成23年度よりモデル校として実施されている。他校においても、導入を要望する。

⑥ 小中学校での歯磨きの推進

歯磨きは、虫歯・歯周病を予防する上で最も基本的な予防処置である。保育園では、給食後、全員で歯磨きをしているのに、なぜ、小中学校では、歯磨きをしないのか。生活習慣の変化に伴い、歯周病の低年齢化が報告されている。尾張旭市では、小学校の歯垢要受診者は、全国平均よりも高く、虫歯および歯周病のリスクが高いと考えられる。中学校では、歯肉の要受診者が全国平均より高い結果となっており、小学校で見られた歯垢の付着から中学生の歯肉の悪化につながっている可能性があると考えられる。小中学校での昼食後の歯磨きの実施を要望する。まずは、歯磨きする児童・生徒を妨げない、雰囲気作りからでも始めてもらいたい。

→ 県内では、給食後に歯磨きを行っている学校もある。

⑦ 4歳児・5歳児健診や、6歳児健診における事業の円滑化

歯科健診の参加者が頭打ちとなっている。歯科医師会では少しでも健診に参加していただけるよう、付き添いでみえた大人の健診を実施したり、記念品を用意している。記念品としてあさぴーグッズが用意できると市のアピールにもなると考えるので検討を要望する。

⑧ 市の職員の歯科健診

尾張旭市は、市内の事業者に率先し、職員の歯科健診を集団検診ではなく、より精度の高い歯科医院への来院型の健診を行ってほしい。

→今年度から、市が入っている共済組合で県単位で可能となった。

⑨ 特定健診へ歯科健診を導入

生活習慣病における歯科保健指導対策が、歯周病と糖尿病との相関関係や、歯周病が心疾患に影響を及ぼすこと、肥満防止のためによく噛んで物を食べるために健康な歯が必要であることを考慮し、歯科健診と歯科保健指導が特定健診同様に実施されるよう検討を要望する。

⑩ 治療完了書に対する文書料の請求

現在、歯科健診後、治療が必要な児童生徒に対して、治療勧告書を配布し治療が完了すると、歯科医院の治療完了サインを記載するが、文書料いただいていない。医師会では文書料をいただいているため、歯科医師会でも文書料を要望する。

8 ピース・トレランス

① 災害時の対応について

- ・災害時は、人工呼吸器など医療機器を使用している障がい者にとって、時間との戦いになる。外部バッテリーを利用しても14時間まで（時間は機種による）。エレベーターが止まったら避難もできない。町内会での要援護者としての把握の話はあったが進んでいないため、災害時の不安を抱えている。

→公立陶生病院では、酸素ステーションが設置され優先的に必要な方へ支給されることとなった。同じように人工呼吸器に使用するバッテリーや充電するための発電機が提供できることを要望していく。また、旭労災病院においても、同じように協定を結び医療機器が優先的に支給できるよう要望していく。

- ・福祉避難所に関する情報が、障がい者まで全く下りてきていない。介助者の人員確保、医療的ケア、福祉避難所までの移動などどうしたらいいのか。

② 訪問入浴について

現在、訪問入浴は月に5日となっている。実質1週間に1日となるが、せめて夏だけでも週2日をお願いしたい。シャワーで汗を流すこともできない障がい者にとって訪問入浴の利用できる回数が圧倒的に少なく、自己負担では料金が高く利用できない。（実費の場合、事業所によるが負担額1回約8500円必要）

③ 緊急時に備えた重度訪問介護の支給時間拡大と受け入れ先

介助者の病気やレスパイトなどの緊急時に備えて、全利用者において重度訪問介護の支給時間数を実際よりも多く確保できないか。予備的な時間の枠があると安心して生活が送れる。

（例：現在1日7時間使用、最大15時間まで可能。希望としては24時間利用が望ましい。）

また、医療的ケアが必要な障がい者の緊急時の受け入れ先がなく、普段のショートステイ先がなかなか見つからない現状に、不安を感じる。

④ デイサービスが利用できない人に対する支援について

高齢者や障がい者が集うのは、デイサービスであるが、引きこもりの方や介護する側の支援についてどう考えているのか。

⑤ リフトタクシーチケットの利便性について

現在、リフトタクシーのチケットは、年に4000円が12枚支給される。月に1回の通院であっても、往復必要なため、半年分となる。また、通院の間隔が長い方、行き先が近い方もあり、1000円券48枚のほうが使い勝手が良い。車いすでは、あさぴ一号の利用もできなく交通手段は介護タクシーに限られるため、利便性の良い形での支給をお願いしたい。→担当課との勉強会を開催し、要望を伝えた。

9 尾張旭こどもものづくり教室

① 現状の課題

現在、小学校4年生から6年生の児童の親子を対象に、月1回中央公民館で「親子ふれあいものづくり教室」として開催している。前準備など常時活動する場所がなく、現在は代表者の自宅で行っている。また、会員の高齢化（会員数7名から8名）も問題である。

② 「少年少女発明クラブ」の設置要望

現在、県内に23か所「少年少女発明クラブ」が設置されており、ここに所属することで国と県から40万円支給がある。尾張旭市でも、少年少女発明クラブを設置してほしい。

③ 活動する拠点がなく困っている。

学校の場合、理科室や図工室には準備室があるように、工具などを置き、準備する場所が必要である。会員が集まり準備する場所がほしい。

10 瀬戸旭医師会

① 学校給食の減塩対策について（旭労災病院 木村病院長）

健康都市としての尾張旭市は、生活習慣病予防のため、子どもの時から減塩に取り組むことが必要であると考え。子どもの時から、薄味に慣れ、子どもから家庭に薄味を発信する効果が期待される。そのため、学校給食において1食2グラムを目指す減塩対策を提案する。

② 認知症対策に医師会との連携を提案

現在、行政より委託を受けている医療介護連携推進事業が平成30年度から、地域支援事業となり認知症対策を行うことになるが、その認知症対策に医師会として関わっていきたい。

③ 新型インフルエンザ予防接種の特定接種について

インフルエンザが流行する前に、医療従事者、警察、行政などの関係者には接種する特定接種が国から指導されている。医師会と委託契約しているが、旭労災病院での委託ができないか。

今後、全住民に4カ月の間に2回接種する旨の通知が国から出される予定となっている。このことを考えると、尾張旭市で16万回の接種が必要となるため、集団接種でないと無理が生じてくる。

④ 災害時の対策について

災害時の救護所について、市内に橋梁があることを考え、本地ヶ原方面にも1カ所救護所が必要と考える。また、災害時に医師はどこに集まればいいのか、どう動いたらいいのか、何が必要かなど災害時の対策を考えていきたい。

→ 災害対策室との意見交換会を提案

1 1 尾張旭市聴覚障害者福祉会

① 現状の課題

現在、市役所の手話通訳者設置時間は、毎週月曜日の8時半から12時までとなっており、その時間に市役所へ行けるとは限らない。近隣の病院（陶生、旭労災、愛知医大）にも常設の手話通訳者がおらず、現在は、通訳が必要なときに申し込み用紙を記入し福祉課へ提出、派遣センターから通訳者が派遣される仕組みである。また、災害時の情報が、聴覚障がい者には伝わらないので困る。

② 手話通訳者設置時間、曜日の拡大について

近隣市を見ても、設置時間や曜日が尾張旭市よりも多い。現在の設置時間に市役所へ行けるとは限らないので、設置曜日・時間の拡大を要望する。

（瀬戸市・・・火：午前9時半～午後1時半、金：午後12時15分～午後5時15分 長久手市・・・火：午前9時～正午、木：午後1時～4時 日進市・・・常設で一人 春日井市・・・毎日、午前8時半～正午と午後1時～5時）

③ 近隣の病院への手話通訳者の設置について

緊急時には、ろう者だけではなく、医師や看護師にとっても手話通訳は必要であるので、常設的な設置を要望する。

④ 災害時の情報伝達について

災害時の防災行政無線の情報は、聴覚障がい者には伝わらない。避難所での情報も音声中心で、どこで救援物資が支給されるのかなど伝わらないので、視覚情報がきちんと伝わるようにしてほしい。

⑤ 市主催の行事には、必ず、手話通訳をつけてほしい。（防災訓練、講演会、式典など）

1 2 尾張旭市棒の手保存会 印場東軍流

① 現状の課題

愛知県の無形民俗文化財であるが、予算は市からのみで県からはなく、道具の整備など費用の掛かることもある。県のイベントでも交通費のみの支給。

② 無形民俗文化財として、さらに棒の手を普及していきたい。そのためにも、各種の文化芸能大会やイベントに、市が率先して取り組んでほしい。

③ 県の棒の手大会を尾張旭市で開催してほしい。

→平成31年に行われる全国植樹祭を記念して、開催できるよう関係者と連携を図っていき検討を進めてはどうか。